

調していたのに。

内藤 自分の言うことを聞かないなら、選挙で選ばれても無視するって、そんなのは独裁者と変わらない。当時トルコ政府首脳が、「ハマスは過激だけど、民意が選んだのだから、テロ組織として没交渉にはしない」と言ったことをよく覚えています。9・11以降、「イスラムを掲げている場合はとにかくダメだ、あれはテロと関連しているんだ」という空気がすごく蔓延まんえんしていました。選挙をやって、イスラムを掲げる政党が出てきたら、手段を問わず潰つぶしていい——この発想は、数年後、「アラブの春」の民主化運動を寄ってたかって潰す時にも使われま

した。
しかもパレスチナの場合というのは、それまでの非常に抑圧された、奪われてきた歴史があつて。さつきも言いましたけど、その最後に神頼みというかな、ハマスというイスラムの勢力が出てきた。

そのことを知っているのだから、諸外国は、ハマスが支配権を取った後に、ハマスに対して「武器を置いて政治プロセスに行こう。そのための環境を整えるから」と言わなければいけなかった。ところが、アメリカもEUも頭から「あれはテロ組織だ、交渉しない」と宣言してしまつた。そうしたら、武装闘争路線を変えるわけがないですよ。

三牧 アフガニスタンのカブールで、学生がアメリカの「テロとの戦い」への抗議運動をしていた際、「アメリカこそが最大のテロリストだ」という横断幕が見受けられました。

病院や学校のように、もつとも安全であるべきところに、アメリカも爆撃を行なつてきました。平和に暮らしている市民の生活や命を破壊することが「テロ」であるならば、「テロとの戦い」を掲げて、無差別に爆撃をしているあなたたちこそ「テロリスト」ではないか、という痛烈な皮肉です。

20年超の「テロとの戦い」は、アフガニスタン、イラクのみならず、パキスタンやソマリアといった国々にも拡大し、数十カ国でアメリカは対テロ作戦を行なつてきました。大量のドローンで多くの人々が亡くなりました。そもそもアフガニスタンに関しても、アメリカへのテロ攻撃はアルカイダというテロ組織がやったことで、アフガニスタンが国家としてやったことではありません。こうした数々の問題がある軍事行動を、アメリカは「自衛」や「テロとの戦い」といつて正当化してきた。

実態としてはテロリズムみたいなことを自分でもやりながら、民主主義という価値の体現者のように振る舞い、ハマスのようなイスラム勢力が選挙で勝った場合には「イスラム組織Ⅱテロ組織」といったレッテル貼りをして、その選挙結果を否定する。イスラムフォビア（イスラム嫌悪）が根強いアメリカでは、そうしたレッテル貼りが功を奏してしまふ。ネタニヤフも、欧米のイスラムフォビアを喚起するような表現を、非常に有効に使っています。

自壊する欧米

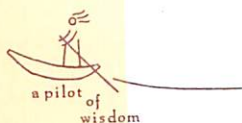
ガザ危機が問うダブルスタンダード

内藤正典

Naito Masanori

三牧聖子

Mimaki Seiko



集英社
新書

1211

A